に、新たに諸種の變調が現はれた。亂後の國家社會に發生した變革は卽ちこれである。就中注意しなければならぬのは、個人の實力の表面に現はれ來つたことで、實際に當つて何等爲すなき門閥の權勢の如きは、先づ以て凋落すべき運命に遭遇し、紈袴子弟の白面の前に、屑鐵にも譬へられた武人の跋扈跳梁が現出し、科擧出身の多くの逸材の聲譽は、また彼等をして後へに瞠若たらしめた。

かくて大亂以前に重んぜられた貴族の系譜の穿鑿の如きはもはや政治上には顧られず、凡そ李氏といへば隴西、劉氏といへば彭城の出と誰彼の差別も無く稱することとなり、冠冕皂隷混じて一つとなつたといはれてゐる。されば若し貴族政治の衰亡・庶民階級の進出といふ觀點から近世といふ時期を區別するならば、正にこの大亂の終つた時を以てこれに當てて然るべきであらう。

宋時代

太祖の抑武と君主權の伸張

唐末から五代を通じての時代はいはゆる下剋上の世の中で、個人殊に武人の勢力の競爭相搏に始終し、社會の秩序は紊亂し、大義名分は地を攘ひ「君を置くこと吏を易ふるが如く、國を變ずること傳舍の如き」有樣であつた。かゝる有樣は武人の勢力の根源卽ち彼等の有する兵力の上に適當なる處置を加へざる限り、いつまで經つても變るべきでないのは明らかなことである。この處置において成功したのが宋の太祖である。太祖が卽位の後、その臣從